



# フィグ・ヤーパン通信

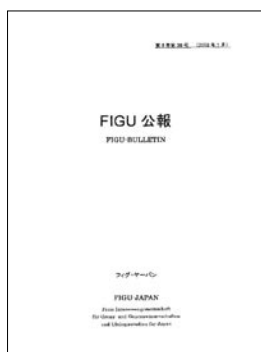
## 第12号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.12

発行日 2002年10月1日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

### 新刊 『FIGU公報』第8巻38号



(ドイツ語原文対訳 A4判 44ページ)

FIGU スイスでは1995年4月より、時事的な問題に関するFIGUの見解を迅速に公開することを目的として、『FIGU公報 (FIGU-BULLETIN)』の発刊を開始しました。これまでに、40号まで発刊されています(2002年8月現在)。「BULLETIN」は[ビュルタン]とフランス語読みで、アクセントを「タ」において発音します。日本語版では「公報」、英語版では「ニュースレター (Newsletter)」と訳されています。

フィグ・ヤーパンではこれまで6号、7号、29号、30号を全訳し、発行してまいりました。また、36号の一部を『フィグ・ヤーパン通信』第11号で紹介いたしました。このたび、新たに、『FIGU公報』第8巻38号を発刊する運びになりました。

ここでは『FIGU公報』第8巻38号に掲載されている主な記事について紹介いたします。

- ・アフガニスタンおよび人間、平和、世界の情勢
- ・読者の質問とビリーによる回答
- ・UFO目撃情報
- ・テロや不幸や災害に対する人間の不安を利用する教派ビジネス
- ・新聞記事からの抜粋 (長寿遺伝子、小惑星発見、ヒマラヤの地震警告、海底に沈んだ都市の財宝、火山岩に含まれた太古の海水など)
- ・ますます困難になる原油の探索
- ・新しい惑星発見
- ・火星までの飛行時間は2週間
- ・プターとの会話 (テロリズムの狂気について)
- ・人間の使命、尊厳および義務
- ・臓器の需要増を処刑でまかなう現状 (香港からFAXで送られてきた南中国モーニングポスト紙の記事)
- ・FIGU スイスによる2002年の講演

なお、『FIGU公報』は他の出版物と異なり、翻訳校正作業は迅速さとコストの削減を重視し、装丁は前号と同様に簡単な形態といたしました。定価500円(税込み)で販売しております。詳しくは巻末をご覧ください。今後も緊急にお伝えすべき内容の記事につきましては抜粋して『フィグ・ヤーパン通信』でも紹介していきたいと思っております。しかし、『FIGU公報』に掲載されているすべての内容を毎号継続して出版していくために、十分な予算が確保できておりません。今後とも皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

## 新刊 『あえて賢くあれ』



ドイツ語原文対訳  
A6判  
24ページ

この作品でビリーは、人間が愛と幸福、平和と快活、自由、喜びと調和を追い求めるために、副題のタイトルとしても述べられているように、「あえて理性を働かせる勇気を持って」生きるよう、呼びかけています。

昨年、FIGU スイスはこの作品を A6 判の冊子にとりまとめ、発行しました。フィグ・ヤーパンではこれを全訳し、ドイツ語の原文と見開き対訳で、原典と同様に A6 判の冊子にまとめて出版しました。ここではその内容の一部を紹介します。

地球の人間よ。私はあなたがいついかなる場合も必要な思慮を働かせ、また愛と幸福、平和と快活、自由、喜びと調和を追い求めて、あなたの人生を本当の満足感のうちに送り、すべてを同胞と分かち合えるようになることを願っている。それゆえ、あらゆるけんそうのただ中で、人生のあらゆる高みと深みのただ中で、あなたの良き道を一直線に進みなさい。世の中の性急さに影響されることなく、いついかなる事柄においても落ち着き払い、慌ただしさが迫りくるときは平静を保ちなさい。決してしゃべりすぎることなく、常に沈黙の価値に思いを致しなさい。沈黙には多くの平和と思慮が含まれているから。たとえあなたが自らの内に平和を保とうとも、またあなた自身の意図、努力、着想、願望および空想がどのようなものであれ、生活のかまびすしい混乱の中であなたの思考と感情はありとあらゆる良いものや愛すべきもの、平和と自由、調和と幸福、そして喜びを格別に必要としている。.....

## 新刊 『FIGUの原則あるいは人間の原則』



ドイツ語原文対訳  
A5判  
16ページ

この作品は、FIGU あるいは人間としてのあるべき原則を 49 条にとりまとめた小冊子として発行されました。どの条項も思慮深い内容にまとまっていますが、実に 1951 年 2 月 3 日、ビリーが 14 歳の誕生日に執筆した作品です。

昨年、FIGU スイスではこの作品を A5 判と A6 判の冊子にまとめ、発行しました。フィグ・ヤーパンではこれを全訳し、ドイツ語の原文と見開き対訳で、A5 判の冊子にまとめました。ここではその内容の一部を紹介します。

- 1) 人間はだれでも自分自身で人生の固有の意味を問い、これを探し、見だし、そしてその意味を自分の生活や活動を改善するために活用しなければならない。
- 2) 人間はだれでも自分自身であらねばならず、それゆえまた自分自身の指導者として、独自のめざましい着想を生み出し、追求し、そして実現しなければならない。
- 3) 人間はだれでも自分の理性と判断力を働かせて、自分から最良のもの、有益なものを引き出し、自分の意思で自己形成し、そして自分自身の欲求に自発的に従うようにしなければならない。
- 4) 人間はだれでも常に自分自身であって、まさしく自分自身の強烈な体験を持ち、決して隷属させられたり屈服させられたりすることなく、したがってあらゆる点で、特に思考と感情、また決断、意図、意見、情緒および行為などにおいて、個人の内的および外的な自由を保つように自己形成しなければならない。.....

## 攻撃、暴力、そしてテロリズム（1）

エドゥアルト・ビリー・マイヤー

攻撃はどこからくるのか。なぜ人間はその攻撃と、そこから生まれる暴力行為、殺人や自殺、破壊や破滅によって、自らと他人とを繰り返し不幸や凄まじい惨めさや死に陥れるのであろうか。このとき、もしかして攻撃とは遺伝的プログラミングの形態ではないのか、あるいは攻撃の原因はさまざまな社会、自分自身の人格、いろいろな信条、あるいは人類や個々の人間の政治的な観点や意見に求められるのではないかという疑問が生まれる。

攻撃は一般に邪悪な暴力によって表現される。暴力は突然爆発的に発揮されることもあれば、暴力を意識的に地下でせき止め、いわば「眠らせて」おいて、ある適当な瞬間に行使することも可能である。この意識的な鬱積の過程は、厳しく抑制された冷酷な計算に基づいている。この計算は、ある特定の時点に、はなはだしく暴力的な攻撃行動によって災厄を引き起こすことを目指すものであり、こうした災厄は死をもたらす行為にも、破壊や破滅にも変貌し得る。これが特に際立つのは、宗教的狂信主義、人種的狂信主義、宗派主義、宗教的原理主義、政治的狂信主義およびそれらの変種の思考や感情や情動の産物が原動力となる場合である。この場合に特に該当するのは、憎しみや復讐や報復欲が変貌した情動である。これらは抑制のきかない現象形態であり、あらゆる方向に現れることができる。すなわちそれらは上に挙げたものだけでなく、純粋に人格的なもの、たとえば嫉妬心や権力欲、支配欲や金銭欲、そして快樂や中毒や欲望、さらにりんしょくやねたみなどの形で現れる。

人間の攻撃的な暴力は、抑制されなければ生のあらゆる領域で発揮される。攻撃や暴力の行使に対するこのような抑制は、悟性と理性を健康的に熟考および判断して明晰な認識に至るように、攻撃に支配されるのではなく攻撃を支配するために用いるならば絶対可能である。たとえこれが非常に困難な進化の過程であろうとも、そのために必要な理性と意志を働かせ、多大な努力と思考と感情の作業、および克己と自制とを厭わなければ達成できる。しかし攻撃が抑制されなければ、それらは生のあらゆる領域

で、すなわち人間の純粋に個人的な事柄だけでなく、政治においても、そして宗教、宗派、哲学および世俗の信条のさまざまな変種においても野放図に発揮される。しかしまた攻撃と暴力は、あらゆる形態のスポーツや子供の教育、夫婦関係や仲間との付き合い、軍隊や諜報機関、排外主義者や人種差別主義者や原理主義者、それにあらゆる極端な変節者にも見られる。しかし最も悲劇的で攻撃的な暴力は、おそらく人間の私生活で行われている。なぜならば、多くの家族の内部で戦争したり、テロまがいの行為に及んだりしているからである。しかしまた友人と呼び合う人間や、仲のよい隣人も同様である。人間の文明全体について考えてみるならば、文明はすべての攻撃や暴力行為およびテロリズムの野心を押さえきれず、絶対制御できないという印象を抱くであろう。その反面、攻撃そのものを考察するならば、それは人間の太古の行動パターンであるが、人間以外のほとんどすべての生命形態にも固有のものであることが分かる。最も低次の極めて単純な生命形態でさえも、その環境と他の生命形態を味方または敵と認識し、それに基づいて独自の行動様式を作る。高次の生命形態、たとえば高等動物は攻撃的な行動により互いの力を量って、ボスの座や、縄張りの画定や、交尾権などを決める。しかしこの場合原則として闘いを通じて支配者を決めるための目測を行っているに過ぎず、やはり闘うもの同士が互いに重い傷を負わせるようなことは基本的にない。例外はあるだろうが、例外があるのは規則が厳存する証拠でもある。同種の動物は、無責任な人間の手で暴力により、すべてをかみ裂く殺戮機械や血に飢えた野獣に仕立てられない限り、互いに殺し合うことはない。通常は、つまり自然の法則に従うならば、同じ種に属する動物は互いに殺し合わない。この場合、フェアなゲームと闘いというモットーが常にあり、弱い方の動物は降参し、原則として攻撃を受けることなくその場から立ち去るのである。しかしながら痛ましい例外がある。すなわち人間に非常によく似ているチンパンジーである。この動物種は多くの点で人間のように振る舞う。これらのサルは同種間でもさんざん痛め付ける。それも個と個の闘いだけでなく、集団全体で噛んだり殴ったりして、重傷を負う個体も出現する。この場合、石や固い果実や木の棒など

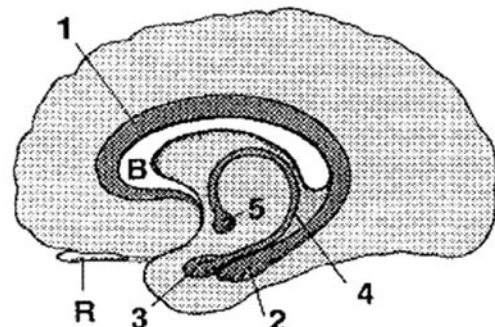
を使用することもあり、その犠牲になったものはしばしばじめにも死んでいたり、虐待によってすぐさま殺されたりする。互いに敵対するチンパンジーの集団では、人間と同じように定期的に戦争行為が見られる。抵抗する力を失った者に対しても、死ぬほどの重傷を負わせるまでは攻撃の手をゆるめない。この点では人間およびその行動と違いはない。このように人間を除けばチンパンジーは、同じ種に対して攻撃的、致命的な暴力を行使する、地球上で唯一の高等生物である。しかしこのことは、知性を問題にするならば、この地球上に住む最も知的な2種類の生命形態は、同時に最も攻撃的、暴力的、殺戮的であるということの意味する。まさにこのことが次の問いを投げかける。人間はそもそもなぜ攻撃的なのだろうか、と。

人間は、何らかの形で多かれ少なかれ自分を阻害しているか、または阻害していると思われるあらゆる事柄に対して攻撃や暴力、さらにはテロに訴える。それが人格的なことや個人的なことに關するものであろうと、規則や法律によるものであろうと、あるいは宗教、政府、国家、哲学、その他何らかの世界観、宗派、軍隊や諜報機関、組織や学校などの策謀によるものであろうと。人間は、阻害として経験および体験したこと、あるいは何らかの理由で阻害とみなすにすぎないすべてのものに対して、攻撃と暴力あるいは邪悪なテロで応じる。どんなことでも自分が阻害されたと感じ、自尊心が傷つく理由となる。他の人間と同じ意見ではなかったり、他の人間がその仕事でより多くの収入を得たり、より多くの財産を所有したり、自分の全財産などが危険にさらされたり、隣人の樹木の枝が伸びて自分の庭に入ったり、失業したり、衛生と秩序、平和と調和、あるいは規律が求められたり、隣人の方が知識が豊富で

人柄も頭も良く、より多くの友人や知人を持っていたり、あるいは良い職業についていたりした場合など。それどころか、他の女性の方が胸が大きいとか、ある人が身体の均整がとれているといった理由でも十分である。攻撃や暴力は、人種や社会の異なる人間、あるいは単に見慣れない人間や外国人が出現しただけでも起きる。食欲や性欲に関して、あるいは支配欲や名誉欲、計画や目標、そのほか何らかの事柄で阻害されるか、もしくはそのように思うだけでも、人間には攻撃的で暴力的な特徴が現れる。このことは一人の人間を占有したいという欲望にも当てはまり、嫉妬心が攻撃的、かつひどく暴力的な形で表出する。攻撃性を意識的に鬱積させて後になってから致命的または破壊的かつ破滅的な恐るべき行動を取るといったことがない場合、人間は通常攻撃的かつ暴力的に反応するか否かを瞬時にして決定する。しかも攻撃が、憤激の発作とも言える突発的な攻撃である場合、それは原則として突然電撃的に高揚する情動であるから、人間はやはり電撃的な形で反応し、したがって全体を制御することは全くできないか、ほとんど不可能である。なぜならば、攻撃が生じたときは、通常はなおもこれを制御しようとしてもすでに遅すぎるからである。それゆえ、論理的で理性に満ちた思考と感情によって、攻撃的な振り舞い全体を冷静に熟視し和らげなければならない。それは攻撃を緩和して取り除き、これを中和して解消させることによつてのみ初めて可能である。しかし攻撃がすでに爆発している場合には抑制することは原則として不可能であり、したがって攻撃に服従することなく、これを克服することは極めて難しい。しかし本当に何もしなかったなら、あらゆる形の攻撃は際限なく高まり、ついには激しい憎しみと、途方もない復讐心や狂信主義が生まれ、そこから抜け

#### 大脳辺縁系

1. 帯状束 (Cingulum)
  2. 海馬傍回
  3. 扁桃核 (Corpus amygdaloïderum)
  4. 脳弓 (Fornix)
  5. 乳頭体 (視床および視床下部との連絡)
- B. 脳梁 (Corpus collosum)  
R. 嗅球 (Bulbus olfactorius)



道を見つけ出すことはほとんどできなくなる。このような場合、人間はそのすべての感覚と刺激によって知覚を研ぎ澄まして情報を集め、それらの情報によって情動をとめどもなく攻撃的かつ暴力的に発露または爆発させる。この過程は、知覚が刺激に変わり、それに伴ってまた微妙な電氣的パルスに変化する過程である。脳はこれらの情報をものすごい速さで処理および判断し、それから同じ速さで細かく枝分かれした細微な神経経路を通して、いわば脳のコントロールセンターである視床に送る。この速度を保ちながら、これらの情報は次に大脳辺縁系内のいわゆる扁桃核に達する。ここで、すべての知覚されたものと全状況とが、記憶や経験、認識や知識や知恵、推測や推量、そして願望や欲望、ならびに体験などと比較される。このものすごく速い過程は、刺激を評定する働きをする。もし人間が意識的に努めるならば、まさにここに悟性が介入し本能的な衝動は抑制されるはずである。しかし、通常はこれが行われることはなく、その結果、いやおうもなく感情の爆発に至る。しかし実際にこれが起こり得るのは、まだ休眠状態または睡眠状態のうちに攻撃がコントロールされていない場合に限る。こうしたコントロールが行われさえすれば、扁桃核によって刺激の評定が行われるとき攻撃は抑制される。

(次号に続く)

## テロのショックを乗り越える

ベルナデッテ・ブランツ (スイス)

9月11日、西側世界は根本から瓦解した。そのときニューヨークの世界貿易センターの2つのタワーのがれきの下に数多くの人間が埋もれただけでなく、多くの人間が持っていた仮構の安心感が崩れ去ったのである。ショックと無力感、放心状態に襲われ、そしていつ、どこでも破局が人間に降りかかり、慣れた日常生活から人間を引き裂いて、計りしれない挑戦の待つ新しい未知の世界に投げ入れられたということを突然思い知らされた人々は、激しく動揺している。テレビの報道に写し出された人々の顔には衝撃と赤裸な不安が刻まれており、至るところで悲しみと驚愕が、そして際限のない痛ましさが語られている。

この出来事には私も冷静ではいられず、他の多くの人々と同じように、最初のショックを自分のみぞおちにはっきりと感じた。私も不幸な運命に見舞われた気の毒な人々を思い心が痛んだ。多くの人々を襲ったこの恐るべき悲劇を思い浮かべるのに想像力を働かせる必要などなかった。が、誰よりも被害を受けたのは、命を落とさねばならなかった人々ではなく、むしろ生き残った人々である。これらの人々は精神的に巻き添えになったにすぎないにもかかわらず、体に感じられる衝撃を受けた。その強烈な衝撃波は世界を駆け巡り、その影響は数日たった今でも感じられる。その衝撃を助長するのは、無責任で愚かしく、分別も感情移入能力もなく、まさに人間のこの状態をしつこく詮索することである。その決まり文句はこうだ。「ご覧ください。私たちはみんな非常に驚き、悲しみ、ショックを受けています。私たちはこの出来事に非常に苦しみ、被害者に強く同情しています。」まさにこうしてほじくり返されたものは、ただでさえショッキングな出来事を正しく整理し、それに対して必要な距離を取り、再び機能を回復して正常に戻らなければならないという問題を抱えている人々に精神的な外傷を与えているのである。

人々に落ち着いてその印象を整理させる代わりに、衝撃的な映像をひっきりなしに、ありとあらゆる角度から繰り返し流して、記憶の奥底に植え付けた。しかしそれは人々がこうした不幸から再び立ち直るための助けには全然ならない。それよりもむしろ、こうしたテロ行為も、あるいはもっとひどいことでも、人間が食べる、飲む、眠る、あるいは衣類や暖房など、その最も原始的な欲求を満足させねばならないということを些かも変えはしないこと、そしてそこにこそ人生の無限の慰めが表現されているのだということを、人々に意識させるべきだろう。まさにこれらの欲求を満たすことは、自己責任の最も原始的な形態でもある。なぜならば、それらは人間が悲惨さから気を紛らわせ、再び自分の心を安定させて、苦悩やショックを次第に克服するのを助けるからである。日常の営みや、心を落ち着かせる適当な気晴らし、たとえば美しい音楽や、自然を巧みに撮影した放送や、ショッキングな映像を絶対に思い出させない興味深いドキュメンタリー映画などにより、人間は残酷な体験に対して適当な距離をおき、

少し離れたところからその出来事と向き合い、熟考できるようになるだろう。

まさにこうした熟考を回避し、妨害しているのは、まやかしの悲しみを表明したがる連中であり、彼らはあのような忌まわしい犯行をもたらした諸般の事情やメカニズムを客観的に追究しようとはしない。このような熟考によってこそ個々人は、憎悪や復讐心や報復の叫びによって作られた不断のジレンマから自力で脱け出す道を発見できるのだが。全人類の思考と感情の変化、および人間を尊重するヒューマニズムへの帰依が、個々人の平和な思考と行動に根を下ろして世界中に広がらなければならない。この必要な転換は、真に感受された悲しみに基づくものであり、多くの人間の見せびらかしの悲嘆とは無縁である。見せびらかしの悲嘆は、行き着くところ無益な同情と空虚な美辞で終わるのである。真に感受され精神的に整理された悲しみは、人間に根源的で真実の共感を得させ、それによって人間は被害者を前向きに助け、真に持続的に支援することができるのである。

至るところで表明される気の毒な犠牲者への同情と、それによって引き起こされる悲嘆は、人間をさらにいっそう惨めさの淵に引きずり下ろし、復讐と報復を叫ばせる。なぜならば、彼らはそれによって惨めで無力な感情を捨てることができ、再び回復したと感じるように思い込んでいるからである。しかし復讐と報復によっては、不幸な出来事を取り除くことはできない。どのみちそれらは取り消すことができないからである。復讐と報復によってはそれらの悲惨な出来事は処理されることなく、すべてがますます深く、見渡すことのできない危険な関係にからみ取られていく。そのうえ、このような悲嘆は人間の思考を麻痺させ、その結果人間は判断力を失い、無分別で不適切な行動を取りはじめるのである。悲嘆が無益であることについては、『ほんの少しの知識と感覚と知恵（仮題）\*』に非常に良いことが書かれている。それは私にとって9月11日の出来事に関連して極めて重要であり、大いに傾聴に値すると思われる。

「悲嘆とは心理運動のひとつで、人間はこれに対して十分抵抗できなければならず、これを愛したり、尊重したりすべきではないが、大多数の人間はこれ

を好意的に受け止め、感情表現において優位に見なしている。しかしそれによって生命自体が、それとともに良心、知識、意識、徳および人間の愛が人為的に装飾されて、人間は事実の現実的な処理や、なんらかの事件や出来事を処理せねばならない特定の瞬間から目をそらし、真実を認識させる適当な枠組みのなかでこれらと向き合うことなしで済ませる。こうして悲嘆それ自体が惨めさに格下げされて、あらゆる洞察を妨害し、それゆえ本当の事実の認識や理解を不可能にしてしまう。その結果、苦悩を生み出している状況や事柄などに心を占領された状態が生まれる。こうした状況や事柄は、根本的に克服すべきであり、したがってまた理解すべきものである。しかし、誤った思考、そしてまた誤った感情形成の結果、それらは心理崩壊を招き、全面的な悲嘆に行き着き、そしてすべての理性が不在と混乱に帰する。」  
\*『Ein Quentchen Wissen, Sinn und Weisheit』（ビリー著）現在フィグ・ヤーパンで翻訳中です。

## フィグ・ヤーパンからのお知らせ

### □ 第7回全国読者集会のご案内 □

恒例となりました全国読者集会を、来る平成15年（2003年）2月2日（日曜日）神奈川県川崎市において開催する予定です。フィグ・ヤーパンも11年目に入り、6月には事務所も開設し、さらなる出版事業をはじめ各種活動に専念できる体制となりました。7回目を数える読者集会では、装いを新たに、読者の皆様の活動発表を中心として行う予定です。近年、各地で結成されているスタディーグループの活動報告、日本に初めてビリー・マイヤー事件を紹介したときの逸話、フィグの書物との出会いと取り組みなど、興味深いお話を読者の皆様から発表していただきます。さらに、地球における最も深刻な課題としてプレヤール人からも指摘され、解決のための取り組みを求められている人口過剰問題について、討論会を行う予定です。その他、フィグ・ヤーパンからは、1年間の活動報告や、これから出版する予定の本を紹介します。全国の読者の皆様が一堂に集まり、出会い、交流が生まれるチャンスです。皆様の御参加を心よりお待ちしております。

会場を手配するため、たいへんお手数ですが、ご出席を予定される方は、同封葉書の出欠欄に印をつけ、11月30日までにご投函いただきますよう、お願い申し上げます。なお、詳しい場所、日程などは、来年1月発行予定のフィグ・ヤーパン通信13号等でご案内いたします。

日付 平成15年2月2日(日曜日)  
 時間 午前10時30分～午後4時  
 場所 神奈川県川崎市を予定  
 参加費 300円(当日徴収いたします)

### □ 今後の出版 □

ビリーによる以下の作品について、2名の翻訳者による翻訳・校閲が終了し、現在、ドイツ語のできるボランティア・スタッフの協力を得て校正を進めています。出版は来年度を予定しておりますが、内容の一部については、フィグ・ヤーパン通信でも順次公開する予定です。どうぞご期待ください。

#### ◆「パートナーシップ」(仮題)

この作品では、友人や夫婦の関係など、人間と人間の結びつきにおいて考慮すべき事柄が述べられています。FIGU スイスからA5判の小冊子として出版されています。

#### ◆「プレイヤー人が地球人に望むこと」(仮題)

この作品は、1987年2月28日、第215回目のビリーとクウェツァルの会見の際、クウェツァルがプレイヤー人を代表して、地球人に伝えたい内容を21の項目にわたってとりまとめたものです。FIGU スイスからA5判の小冊子として出版されています。

#### ◆「昨日・今日・明日の心配に関する考察／死後の生はあるか」(仮題)

この作品で、ビリーは不安や恐れ、懐疑や心配にとらわれることなく、これらを克服し、快活で自由に生きることの大切さを述べています。また、死後の生や転生の事実を認めることのない人間が陥りやすい状態を説明しています。1998年、FIGU スイスでA6判の小冊子として出版されたものです。

#### ◆「生と死は互いに切り離しがたく結びついている」(仮題)

ビリーはこの作品の中で、生と死が絶え間ない進化において、互いに切り離しがたく結びついて

いる事実をわかりやすく解説しています。2001年、FIGU スイスからA6判の小冊子として出版されたものです。

#### ◆「男と女に対する言葉」(仮題)

ビリーはこの作品で、男性と女性の肉体的、精神的な仕組みや相違点について知っておくべきことを、遺伝子や理解力、ホルモンなどの具体的な事例を交えて特徴を解説しています。この冊子は2001年、FIGU スイスからA6判の小冊子として出版されたものです。

#### ◆「男と女の違い／男と女の連帯」(仮題)

この作品では、男性と女性の具体的な違いを認識した上で、男女が根本的に正直で深く結びつくことによって、等しい権利を持った統一体を形成することの大切さが述べられています。1998年、FIGU スイスでA6判の小冊子として出版されています。

### □ ボランティアスタッフ募集 □

フィグ・ヤーパンでは、フィグの活動に自由意志で参加できるボランティアスタッフを募集中です。作業内容として、スイスの原典の見出しの翻訳、翻訳作業過程での訳文の校正、フィグ・ヤーパン通信や人口過剰問題配布用冊子の発送、データ入力、全国読者会の企画立案や運営、事務所の在庫整理、ホームページの更新、著作権の監視などがあります。

ご協力いただける方は、ボランティアスタッフとして登録させていただきますので、お気軽にフィグ・ヤーパンまでご一報ください。

## 出版物のご案内

### ■宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)

価格 2,940円(税込 送料別 550グラム)  
 全国の書店でもお求めいただけます。

### ■フィグ・ヤーパン通信

価格 各300円(税込)

1号(送料別45グラム) 2号(送料別225グラム)  
 3号(送料別55グラム) 4号(送料別70グラム)  
 5号(送料別65グラム) 6号(送料別40グラム)  
 7号(送料別60グラム) 8号(送料別70グラム)  
 9号(送料別55グラム) 10号(送料別85グラム)

### ■日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

### ■第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

### ■日本語版 FIGU 公報

6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)

7 号 価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)

29 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

**38 号** 新刊 !!

価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

### ■精神と物質の生命

価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)

### ■切なる願い

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

### ■あえて賢くあれ

新刊 !!

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

### ■FIGU の原則あるいは人間の原則

新刊 !!

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

### ■F. I. G. U. 要綱

無料 (送料のみ 30 グラム)

### ■人口過剰問題配布用冊子

価格 各 100 円 (税込)

人口過剰との闘い (送料別 95 グラム)

拷問と死刑・人口過剰 (送料別 75 グラム)

人口過剰爆弾 (送料別 45 グラム)

### ■ビデオ

ギドー・モースブルッガー東京講演

価格 3200 円 (税込 送料別 390 円/個)

ギドー・モースブルッガー札幌講演

価格 2100 円 (税込 送料別 390 円/個)

### □ 書籍のご注文について □

すべての書籍のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍代金に送料を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

### □ ご注文の手順 □

- (1) 注文する書籍の題名と冊数を確認し、合計金額を算定する。
- (2) 書籍の合計重量を計算し、送料を算定する。
- (3) 郵便局で振替用紙をもらい、下記のとおり記入する。
- (4) (1) + (2) の合計金額を振り込む。(振り込み手数料は各自ご負担願います。)

代金振り込みの際は金額をお間違えのないよう、よくお確かめください。入金確認後に発送いたします。なお、すべての書籍は消費税込みの価格となっておりますので、消費税を計算する必要はありません。

### □ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 310 円
75 グラムまで 140 円	750 グラムまで 340 円
100 グラムまで 160 円	1000 グラムまで 380 円
150 グラムまで 180 円	1500 グラムまで 450 円
200 グラムまで 210 円	2000 グラムまで 520 円
250 グラムまで 240 円	2500 グラムまで 590 円

### □ 振込用紙の記入欄 □

口座番号 : 00160-4-655758

加入者名 : FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額 : 送料を含めた合計金額

払込人 : あなたの住所, 氏名, 電話番号

通信欄 : 購入する書籍名と冊数

### フィグ・ヤーパン通信 第 12 号 (無料)

発行日 2002 年 10 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒 192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 0426 (35) 3741

FAX 0426 (37) 1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail [jp@figu.org](mailto:jp@figu.org)

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複写複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2002 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.